

地域密着型サービス評価の自己評価票 【 秋桜ホーム 】

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	▽ 全職員の理念共有の「大切さ」の意識付け。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	▽ 今後も利用者様のニーズや情勢に適した理念の創作に皆で取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	▽ 毎年行っている家族会やサービス計画説明時等にも活用していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	▽ お茶会等への参加 ▽ 地域の方が気軽に立ち寄れる雰囲気作り。 ▽ 回覧板の活用も現在交渉中。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	▽ 今までもお付き合いのある自治会、民生委員、地域包括支援センター、市役所、支所、病院、福祉施設、警察、消防、津志田小学校、児童館、公民館、図書館、床屋、美容院、花屋、福祉用具店、各スーパー等々の数多くの方(地域資源)との更なる身近なお付き合いを目指していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に住んでいる方々やご家族、利用者様、職員等の提案に耳を傾け、運営推進会議等で議題として取り上げ、具体化に取り組んでいる。	○	▽ 都南太陽荘を窓口とした「認知症」に関する理解やさまざまな支援法の呼びかけ。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去2回の好評価に安心することなく、利用者様やご家族に少しでも多く満足いただけるよう、「より良い生活環境作り」に日々創意工夫し取り組んでいる。	○	▽ よりよいサービスや支援を続ける為のひとつの目安として大いに活用している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、利用者様の意見やサービスの評価、地域との繋がりについて等を議論し、ファイルにまとめ、職員で共有しながら実際の取組みに活かしている。	○	▽ ひばり自治会お茶会への参加 ▽ 「ぴーちく・ぱーちく展」への参加
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協会や地域サービス会議等の他、地域密着にかかわる取り決めの不明な点や各種相談ごとがある時など、こまめに連絡をとり、適正な運営やサービスの質の向上に活かしている。	○	▽ より多くの方が運営推進会議にも出席いただけるよう呼びかけていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当荘でも権利擁護を利用されてる方もおり、また地域会議等での学習も職員の共有に活かしている。また利用者様やご家族の環境やニーズに応じ、相談や支援を行っている。	○	▽ 左記についても職員個々の学習意欲の向上に努めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協会や講習会等での意見交換を通じ、グループホームにおける虐待・拘束的行為について、当荘の職員で意見交換や意識調査を行い、「都南太陽荘の指針」を作成し、日々の取組みに活かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前からの状況把握はもちろんのこと、契約時のご理解いただける説明をし、納得いただいた上、ご本人のすみやかな入居を支援している。また退居時の支援やその後の相談や可能な範囲の支援も実施している。</p>	<p>○</p> <p>▽ 「利用者様の気持ち」や「認知症の方へのご理解」や「ご家族との繋がり大切さ」等も経験談を交え、今まで以上に理解いただける説明に努めていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接的な不満や苦情の他、言葉に出来ない不満等の日常生活の言動からくみとり、記録・共有し、最善の支援法について、その都度協議し、取組みに活かしている。また運営会議や事例研修等にて第三者の方の意見も参考し、活用している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会、来荘、電話、手紙、情報公開、請求、「お小遣い帳」、家族会、行事、ケース記録・サービス計画説明・配布時等々あらゆる手段を活用し、機会があるごとに情報提供や報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関前に「ご意見ポスト」を設置している他に、定期的なアンケート調査や機会があるごとにご家族の意見に耳を傾け、運営会議等で外部の方との意見交換を行い、又職員間協議のもと、日常の取組みに活かしている。</p>	<p>○</p> <p>▽ 家族会等での意見交換の機会を充実させていきたい。 ▽ 年2回の広報、3ヶ月に1回の手紙交流をしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の「申し送り」「ミーティング」「カンファレンス」「責任者会議」「連絡ノート」等活用し、意見交換した内容を「業務報告」「全体会議」や「幹部会」等にて運営者と共に協議し、より良い支援活動に取り組んでいる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>相談や要望に対応することもふまへ、規定人数よりも多く人員配置する日を定期的にもうけ、各会議にて意見交換を行い、カンファレンス等も職員協力のもと、日常業務に支障がない時間を作り、協力して取り組んでいる。また日々の業務内容等も協議し、勤務応援や調整等も必要に応じて柔軟に対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃からホーム間での交流も充実し、荘内の異動時も大きな影響を与えないよう言動にも配慮している。また職員の離職時も利用者様への支援がおろそかにならないよう、引継ぎや人員調整等を行い利用者様の最良な環境保持に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「新人研修(OJT含む)」「管理者研修」「介護支援専門員研修」「計画作成者研修」等々の他、各研修や講習会等の参加、各資格取得に向けた応援や協力支援等「人(職員)が育つことが最良の支援に繋がる」と信じ、力を入れて取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のGH協会に出席し、勉強会、意見(情報)交換等行い、資料等をもとに職員間にて活用し、サービスの質の向上に活かしている。また運営推進会議の訪問交流も実施中である。	○ ▽ GH協会盛岡第一ブロックの「研修委員」として、企画・実施協力を行っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務報告、幹部会での意見交換、全体会議での意見交換、半期に1度の(矢巾)太陽荘との交流会、2Fスペースの活用、又個々で希望休を毎月とることができる。	○ ▽ 周りの方を気にせずに休憩できる空間の確保に努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	総合的能力評価、役職手当、各種手当、資格手当、講習・研修・勉強会への参加、臨時賞与、資格取得に向けた様々な支援と各職員への柔軟な理解、勤務希望の考慮、有給等の対応	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談後、ご本人様との面談の機会をつくり、ご本人の意向や希望等を汲み取れるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や見学時等あらゆる機会をとらえ、時間の許す限り柔軟にご相談に応じ、事例等もふまえ最善の情報提供に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や話の内容から何が求められているのかを見極めながら、最良のアドバイスに努めると共に、サービス全般に対しても情報提供等行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	センター方式を活用し、ご本人の「生活歴」「趣味・嗜好」等を考慮しながら、「なじみのある物」や「生活習慣」を環境の中に少しずつ取り入れ、場の雰囲気に馴染めるよう、その都度ご本人の状況等について、ご家族、職員、関係機関連携のもと、支援を行っている。	○	▽ 入居前後のご家族や関係機関からの十分な聞き取りをしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩にあたる利用者様から学ぶことは数多く、各世代の特色や各人の個性を活かした日常生活支援を行い、喜怒哀楽を共有しあえる環境づくりに職員、関係者一丸となって取り組んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況に変化があった場合にはその都度連絡をとり、状態や状況を共有し、今後の支援について協力関係を築けるよう努めている。また面会、来荘、外出、外泊、電話等の支援も日々行い、少しでも多くの時間を利用者様と過ごしていただけるよう協力している。	○	▽ 家族会や行事等の参加の意義の説明や活用に更に力を入れていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式を活用し、ご本人やご家族の意見や意向に耳を傾け、支援計画(サービス計画)に取り入れ、各々の家庭環境・事情等を考慮し、支援協力している。また気軽に面会等に来ていただけるよう呼びかけ、雰囲気作りや環境整備を行っている。	○	▽ご家族と職員との関係をより密度の濃いものにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等のなじみのある方の面会歓迎(ご家族の意向も考慮の上)支援や手紙の交流、ふるさとへの外出・外泊等の支援等をご家族様にも協力いただき、ご本人の希望を少しでも実現できるよう支援にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の日課を尊重し、お手伝いや日常の創作活動や外出、ドライブ等にて職員が利用者様との間に入り、コミュニケーションの場を提供し、関わり合いを大切にした支援を行っている。(座席の工夫、セッションのきっかけ作り、雰囲気作り等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	次の受入れ先支援後も相談可能の旨お伝えし、気軽に連絡いただけるようお伝えしている。また必要に応じた多岐の情報提供を行っている。また退居された利用者様への面会も状況に応じ行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのご本人の意見や言動から、意向を汲み上げて、ご本人の気持ちになって、希望を具現化し、散歩、台所手伝い、買物等の自己実現に導いていけるよう、皆で協力し、意識的に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご家族や関係機関の情報提供を整理し、最良の支援に生かせるよう、状況把握に努めている。	○	▽ センター方式のご家族様への理解説明に今後も力を入れていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活のモニタリング(様子をみて記録整理)を欠かさず、「健康チェック表」や「ケース記録」等で、その都度改善支援等について日々(ミーティング、ミニカンファ等)協議し、最良の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活から汲み取られるご本人の意向やご家族の意向、担当職員や責任者等の意見や提案を総合的に協議し、介護計画作成の作成や見直しに取り組んでいる。	○	▽ ご家族との意見交換の時間を更に増やせるよう、工夫していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「見直し」はその都度カンファレンス等での意見交換をまとめ、ご本人の状況に変化が生じたときは、ご家族、関係機関相談後「秋桜ノート」や「モニタリング項目」他活用にて支援方向を確立し、職員共有のもと、「現状に即した支援計画」の見直し確認及び取組みを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活における個別の「ケース記録」「モニタリング記録」等を行い、その都度職員間で協議しながら実践し、介護計画に反映している。また「健康チェック表」を記号化して、職員が一目でわかるように工夫をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「予防」から「支援」「介護」と個々の利用者様の能力に応じた多機能支援を職員個々の能力・特性や2U協力で行う行事や日常生活支援、また都南地区の利便性等活用した支援や(矢巾)太陽荘との協力、又急な面会や外出でもご本人やご家族の意向にそった対応等、幅広く柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員(自治会)、地域包括支援センターを地域交流の窓口とし、各関係機関(警察、消防)等にも運営会議に参加したり、津志田小学校や児童センターの交流訪問等を行っている。また年2回地域向け広報を作成し、幅広い理解協力活動に活用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力歯科医院の往診やかかりつけ内科の緊急時における往診の実施他、「地域包括支援センター」「都南地域ケアサービス会議の参加」や福祉用具取扱い店による相談、購入等を通じ他のサービス利用も活用できるよう情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	「運営会議」や「都南地域ケアサービス会議」等で勉強会に参加したり、自治会の行事である「お茶会」や「展示会」等に合同参加して情報交換等を行い、利用者様、ご家族のケースに応じた支援体制作り役に役立っている。	○	▽ 更なる個別的な長期的なマネージメントを話し合っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望等も考慮し、各かかりつけ医(病院)との連携を大切に、ご家族、職員協力体制のもと相談・意見交換・支援等を行っている。また近医に関しては急変時等の休日・夜間の往診も可能時には状況に応じ対応していたい。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者様の個々の状況や状態に応じ、かかりつけ医やご家族相談のもと、必要に応じた支援を協議し対応している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当荘では2名の看護職員の(1U×1名)配置体制になっており、介護職員連携のもと、日々の支援に努めている。また、かかりつけ医(病院)等の看護職員の方とも連携し、情報交換を行い、最良の支援に努めている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>情報交換、相談に加え、職員(利用者様)の定期的なお見舞いや面会を通し、早期退院に向けた情報交換を行っている。また、ご家族と病院での利用者様の状態等を共有確認し、問題点等があれば三者間での話し合い等を行っている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者様の状況や状態の変化については逐次ご家族、医療機関等と連絡を取り、「カンファレンス」等で方針計画を共有して支援に努めている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>定期的に勉強会等を行うと共に、利用者様の個別に応じた重度化支援を各関係機関協力のもとチームケアで出来る限りの支援協力を行っている。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>関係機関との相談協議を行い、ご家族に協力いただき、利用者様にとって「なじみの環境」になれるよう情報提供や支援法について相談・アドバイスをを行っている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の経験者として、個人を尊重し、「そのひとらしい生き方」を支える適切な声かけや接遇に心掛けている。また個人情報に関してはご家族様とも確認しながら、必要に応じた範囲で活用している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーション等を通じながら本人の希望や意見等をくみとり、自己実現等に導けるよう、日々最良の支援に向けて取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日々の日課や希望等を尊重し、起床から就寝までの「個人の生活」を配慮した、協働(共同)生活を支援している。また個々のペースに合わせた職員の柔軟な支援に力を入れている。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の希望を尊重し、ご家族にも理解協力いただきながら、近所の美容院や床屋さん(専属)を利用いただいている。	○ ▽ 認知症サポートの理解協力を少しずつ広げていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の業務で取り組んでおり、個々の「やりがい」や「生きがい」を実感できるよう、衛生面や安全管理に留意しながら、支援している。また四季を感じられるものや旬のものを口にしてもらえるよう、献立に取り入れている。	○ ▽ ご本人が望まない場合は無理せず、可能なものを模索し、提案支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の健康状態についてはかかりつけ医等と相談しながら、極力ご本人の嗜好品を生活の一部に取り入れられるよう、ご家族にも理解協力いただきながら支援に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状況に応じ、自立支援に向けた協力支援を行いながら、気持ちよく、すみやかに排泄が行われるよう、各おむつ関連品を吟味しながら取り組んでいる。	○	▽ プライバシー配慮の基本マニュアルあり。 ▽ 排泄パターン等を把握し、希望に応じた対応の更なる工夫支援をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望を尊重し、時間や曜日にこだわらず、皆様の要望にお答えする形で取り組んでいる。また拒否が続く場合でも、衛生面等を考慮し、少しでも快く入浴いただけるよう事前の声かけやタイミング等の工夫を行っている。	○	▽ 毎日またはほぼ毎日利用の方もおります。 ▽ 状況に応じ、シャワー浴、全身清拭、足浴等も更に柔軟に対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々、ゆっくり休んでいただけるよう、日々の日課の工夫や日中の状況に応じた就寝介助(支援)を工夫し、取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の活用やご家族の協力のもと、個々の生活歴等の把握に努め、個々の希望や趣味・嗜好を尊重し、行事や地域連携等も活用しながら、柔軟な「楽しみごと」の支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くの方はご家族の理解協力のもと、ご本人様の意向を極力配慮し、少しでも安心いただけるよう、必要に応じたお金の所持に努め、希望時は買物支援にも取り組んでいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調、日課(支援業務)等を考慮し、可能な限り外出支援に取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	帰省等の要望時はご家族様に理解協力いただき、支援すると共に、身近な外出等についてはご本人の希望を尊重し、柔軟かつ計画的に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族理解協力に努めながら、可能な限りご本人の意向を尊重し、工夫支援に取り組んでいる。また、ご本人の希望時に電話連絡できる様、支援に努めている。	○	▽ ご本人様の希望で電話をされる際には、ご家族様理解協力のもと、コレクコールを支援利用いただいている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	極力、多くの方に遊びにきていただけるよう、ご家族の理解協力に努めながら、可能な限りご本人の意向を尊重し、ホールや個々の居室で穏やかに過ごしていただける様、工夫支援に取り組んでいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準遵守はもちろんのこと、「身体拘束ゼロ活動」に努めながら、更なるグループホームにおける独自の指針を作成し、利用者様の「尊厳」の配慮に取り組んでいる。また、他のグループホームの取組み等も聞いて参考にしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々、居室はもちろんのこと、玄関(日中)に鍵をかけず、利用者様の行動を制限しないよう努めているが、安全管理等にも留意し、交番や消防等との地域連携にも力をいれている。	○	▽ 構造上、自動ドアの押しボタンが上付近にあるも、利用者も対応できる為、柔軟に外にできる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々の利用者様の行動に視野を広げると共に、ご本人のプライバシーや意向を尊重しながら、夜間の定期的な巡視や職員間の連携にて、生活状況(様子)の把握(確認)に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なじみの品々等の持込みに協力し、個々の生活状況に応じ、ご家族と相談しながら、ご本人の落ち着ける空間や環境づくりを支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の学習会や研修・講習を活用、協議し、個々の生活を配慮しながらご家族様理解協力のもと安全管理に努めている。また事故等が発生しやす時間等を把握に努め、個別の予防支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回以上の避難訓練の実施や協議、急変時の緊急対応等、看護職員、ご家族様、医療機関等と連携し、事例についてもその都度協議しながら安全管理に努めている。また消防署が行う応急救護講習にも積極的に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域訓練等の参加や消防署のアドバイスを参考に、災害時に備えたマニュアルを作成し、地震等の事例協議をふまえながら、職員把握に努め、地域連携の体制づくりにも呼びかけを行っている。	○	▽ 市の災害時地域協力を登録しているご利用者もおられる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク管理の講習や資料を活用し、利用者様の生活に配慮しながら、個々のリスク管理に努めている。また転倒や行方不明の危険性が考えられる利用者様のご家族へは、その都度状況説明等を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子や記録から、体調変化(バイタルサイン確認)の早期発見に努め、かかりつけ医や当荘の看護職員との連携のもと、個々の健康支援対応に取り組むと共に、急変時には早めの救急対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録ファイルに薬の説明書を添付、「お薬手帳」の活用、受診時における記録等から情報共有に努め、服薬管理・服薬支援時の確認に至るまで留意し、取り組んでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼らぬよう、個々の健康状態管理や原因の把握に努め、日々の日課や状態をもとにかかりつけ医相談のもと、個々の生活パターンを配慮したさまざまな工夫支援に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア支援に努めるとともに、かかりつけ協力歯科の往診やご家族の理解協力等にて早期発見・治療に努めている。また入歯を利用の方にはポリデント(消毒)等の使用や日々の口腔ケア支援に取り組んでいる。	○	▽ 昼食後の口腔ケア支援にも、更に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事や水分量等の確認を日々行い、必要量が確保できるよう、食べやすさ・飲みやすさ・嗜好・栄養バランス・タイミング等を考慮し、個々の状態に応じた工夫支援を行っている。	○	▽ 更に水分量の確認及び表記、対応を工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染対策マニュアルを作成し、予防に努めると共に、かかりつけ医と連携し、早期発見・治療に努め、個々の快適な生活支援と共同生活に支障がでないような工夫支援に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒及び衛生管理等のマニュアルを作成し、日々意識して取り組むと共に、食材購入・調理法にも細心の注意を払いながら、利用者のお手伝いや安全管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	エントランスの中庭を活用し、腰掛ベンチを置いて、季節の野菜や草花を植え、利用者様にも協力いただきながら、来荘時にも親しみをもっていただけるよう工夫している。	○	▽ 来客の方や地域・ご家族様にも好評です。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に身近な(カレンダー・時計・花・写真等々)を取り入れると共に、天窓等の自然の光や風を活かしている。また居室の入口には「のれん」等を利用し、落ち着いた雰囲気や個々のプライバシーが保たれるよう配慮し、季節感のある写真や造作・掲示等も模様替えに活かし、利用者様に少しでも居心地よく過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じ定期的な座席やソファ・テーブル等の配置換え等や工夫支援を行い、個々の落ち着ける居場所づくりを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅等で利用されていたなじみのある生活用品を持ち込んでいただき、ご本人の生活状況をみながら、希望を取り入れ、快適な空間(お部屋)づくりを協力支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然や人口の換気を工夫活用し、温度に関しては、利用者様個々の意見や要望を聞きながら、こまめに調整やアドバイス支援を行い、快適な環境づくりに取り組んでいる。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	概ね手摺の設置やバリアフリー等の構造になっているが、安全管理に留意しながら、個々の能力や状態を把握して支援できるよう、工夫し取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を念頭に、ご自身の能力を尊重し、ご自身で困難を回避出来る様、さまざまな視点から、個々の能力の可能性を生かしたお手伝いや創作活動等を工夫支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	エントランスの中庭やベンチ等の活用の他、草むしり、布団(洗濯)干し、散歩等々、日常に即した活動をし、利用者様と一緒に活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		【 秋桜ホーム 】	
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

▽ たくさんありますが、上記「自己評価項目」に記入致しましたので参照願います。